

## 日々 往來

大山 陽久



今年は、戦後70周年といふことで、いろいろな記念行事が行われている。日本銀行が全国各地に有する事務所も、その金てが終戦前後の昭和20年から21年にかけて開設されたもので、鳥取事務所も本年10月15日で開設70年を迎える。

日本銀行の機能として、金融政策運営がよく知られているが、実は日本銀行の一一番基本的な機能は「日本銀行券」(=お札)の発行であり、鳥取事務所は鳥取県の現金供給のかなめとなっている。日本銀行券は、金融政策運営を記念して、お金を手にした展示会を開催することとした。

鳥取における日本銀行とお札の関わりは、特に深いものがある。鳥取市国府町の宇倍神社は、全国で最初にお札の図柄として採用された由緒ある神社である。その後も、宇倍神社は何回かお札に登場しており、特に昭和初期に発行された「い壹圓券」は、現在でも有効に支払いに用いることができる。

そこで、日本銀行鳥取事務所では、10月14～16

日の3日間、開設70周年を記念して、お金力を得て、宇倍神社の図柄入り紙幣の現物を展示するほか、小判や金塊などのレプリカも展示する。さらに、本物の銀行券の裁断屑で造ったソフアに座り、本物そっくりにパック包装した1億円相当の模擬紙幣を持つて記念撮影ができる。

10年に一度あるかないかのこの機会に、ぜひ、鳥取と日本銀行とのつながりを感じて、来場してみませんか(詳細は日本銀行鳥取事務所ホームページを「見てください」)。

(日本銀行鳥取事務所長)